

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572210367		
法人名	株式会社 五十嵐企画		
事業所名	ケアセンターほほえみ グループホームB棟		
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字木戸沢115-10		
自己評価作成日	令和元年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①秋田の奥座敷として親しまれてきた森岳温泉郷に位置しており、その温泉をグループホームに引き入れているので、温泉入浴が楽しみになっている。 ②食材料の野菜は、地産の新鮮な物を利用し、旬の山菜や果物も多く入れているため大変喜ばれている。 ③併設されているデイサービスやショートステイの利用者、また地域の方々、小中学生と施設行事などを通して交流が図られている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員間で共有するためにホール内に掲示し、理念を意識して日々のケアを実践できるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事(町内のお祭り、町民祭)に利用者と共に参加している。また、地域行事や学校行事を通して地域の小中学生と交流する機会がある。		
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	ホーム便りや広報、ホームページの他、施設前の掲示板に利用者の活動を紹介して、認知症に対する理解が深まるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現状や日々の活動、外部評価の結果を報告し、課題検討や意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者には、毎回運営推進会議に出席して頂き、ホームの実情やケアサービスの取り組みを伝えていく。また家族会では利用者、職員だけでなく、家族とも交流を図って頂いた。施設内に問題が発生した時には速やかに報告し、解決に向けて相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の身体拘束廃止に関する指針を踏まえ、年2回身体拘束についての勉強会を行い、その内容と弊害について理解を深めるよう取り組んでいる。身体拘束委員会で話し合われた内容はグループホーム会議で報告し、職員に周知徹底を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について勉強会を行い、職員の理解を深め、施設全体で虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を行い、職員の理解を深めている。対応が必要と思われる利用者に対しては、社協と連携を取りながら活用に向けて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には特に利用料、重度化や看取りについての対応、医療連携体制について詳しく説明して、利用者や家族に疑問や不安な点がないか確認し、同意を得ている。また、解約時においても、理解と納得を得た上で手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関への苦情箱の設置の他、家族会の開催、アンケートや思考調査などを行い、意見や要望、苦情を出しやすい環境づくりに努めている。出された意見等は会議で話し合い、ホームの運営に反映させるように取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は職員との面談を行い、職員の意見・要望を聞き入れる機会を作っている。また管理者も、日頃から職員の意見や要望を聞き入れ、業務に反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長との個人面談で、職員の健康状態や勤務状態を把握し、個々の悩みや要望を聴き、働きやすい環境、職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、職員が施設内外の研修に参加する機会を作っている。また学んだことを業務や運営に反映できるよう職員会議で研修報告をして共有できる場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管内地域で開催されている交流会に出席し、同業者と意見交換しながら日々のサービスや職員の育成に役立つ交流や連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、本人が困っている事、不安な事など状況を把握し、本人の思いや不安を受け止め、安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談で、生活状況や家族が困っている事、不安な事を把握することにより、信頼関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は、人生の先輩であるという気持ちを持ち、共に過ごしていく中で、利用者から生活の技や知恵を覚えてもらう場面を作っている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会時だけでなく、毎月の状況報告書やホーム便り、電話等で生活状況を報告し、共に本人を支えていく関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容院への外出を支援したり、併設のデイサービスやショートステイの合同行事にも参加し、顔なじみの利用者との交流の場を設けている。又、手作りの絵ハガキを発送し、大切な人との関係が続けられるよう支援している。		
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や、その日の心身の状態を把握し、利用者同士良好な関係を保てるよう、職員が調整役となって支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方とも、これまでの関係を大切に、施設行事に招待したり、家族からの相談等にも応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情から思いや意向を、利用者目線で考え、汲み取ることができるよう努めている。意思疎通が困難な場合は、家族からの情報を得て本人の意向を検討している。		
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所後も面会時などに家族や親類から、これまでの生活に関する情報を伝えてもらえるよう、馴染みの関係作りに努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活アセスメントシートを用いて、生活のリズムや本人のできる力の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向に基づいて、カンファレンスを行い、現状に合った介護計画の立案ができるよう心掛けている。また、期間が終了する前であっても、必要時は検見直しを行っている。		
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや状態変化は記録に記載し、情報共有に努めている。記録を基に介護計画の見直し評価を行っている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コーラス、バンドなどボランティアへ協力を呼びかけ、定期的に受け入れをし、楽しみが持てるように支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。通院介助の他、訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の機関と連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、24時間相談可能で、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時点から家族等と相談しながら医療機関に対して情報提供をし、医師と話をする機会をもっている。ホームでの対応可能な段階で早く退院できるよう支援している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所までできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における対応方針を説明し、本人・家族の意向を随時確認しながら取り組んでいる。急変した場合は、医師とも密に連携を図り対応している。ターミナルケアでは、最期までその人らしく暮らせるよう、主治医や家族と連携し、チームで支援できる体制を整えている。		
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、普通救命・応急手当講習を全職員が受講し、急変や事故発生時に全員が対応できるようにしている。また、日中・夜間の緊急対応マニュアルを事務所内に掲示し、周知徹底を図っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、日中と夜間想定年2回、避難訓練と消防訓練を実施している。運営推進会議や自治会を通して、地域との協力関係は構築できている。また、災害マニュアルの作成やグループホーム裏に災害用の備蓄庫を設置している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の誇りやプライバシーを損ねないように、言葉の内容や語調、対応となるよう心がけている。プライバシーの保護や個人情報の勉強会を行い、理解を深めている。		
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声がけや、自分の思いを話しやすい雰囲気作りを行い、自身の思いを話したり決められたりできるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者一人一人の体調に配慮し、その時の本人の思いを尊重して自分らしく過ごせるよう支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時だけでなく、毎日一人一人の生活に合わせたおしゃれができるよう支援している。床屋、美容院も本人の希望に合わせ、出掛けたり訪問してもらったりしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の後片付けは、利用者と一緒にしている。食事は職員と利用者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事できるように雰囲気作りを大切にしている。行事食や嗜好調査などを行い、食事が楽しみとなるよう努めている。		
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好に合わせ、施設の栄養士が毎日の献立を立てている。バイタルチェック表に食事や水分量を記入し、一日の栄養や水分量を把握している。飲み込みが悪くなったり、摂取量不足となった場合は、少しでも摂取量が増えるよう皆でアイデアを出し合っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に利用者一人一人のできる力に合わせた口腔ケアを行っている。就寝前の義歯の洗浄の他、義歯カップや歯磨きコップを定期的に消毒している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握して声掛けやトイレ誘導を行い、排泄の向上にむけた支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れた食事、おやつを提供する他、果物や適度な水分摂取、運動を行う事で自然な排便ができるよう取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯を一応定めてはいるが、利用者の希望に合わせ、それ以外でも温泉入浴を楽しんで頂いている。利用者の健康状態に合わせ、それぞれの方に合った入浴の支援を行っている。		
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴日や時間帯を一応定めてはいるが、利用者の希望に合わせ、それ以外でも温泉入浴を楽しんで頂いている。利用者の健康状態に合わせ、それぞれの方に合った入浴の支援を行っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表や薬局からの薬の説明表を一人一人のケースにファイルし、看護師だけでなく職員も内容を把握できるようにしている。投薬ルールに従った服薬支援を行い、誤薬や飲み忘れ防止に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人に合った楽しみや役割を見つけ支援することで、生活の張り合いや喜びにつなげている。(洗濯干し、洗濯たみ、読書、干し柿作り、茶わんふきなど)		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて行事を企画し、ドライブや買い物、町のイベントにでかけて、気分転換を図っている。歩行困難な方でも本人や家族の要望に応じ、自宅等への外出を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理が出来る利用者は自分の財布からお金を出す事で社会性の維持につなげている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に葉書や手紙を出したり電話をかけやすいよう職員が声がけしている。また、家族にも電話をかけてもらえるよう依頼している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、居心地の良い場所であるよう、室温・音・光・臭いを常に確認している。季節の花や装飾品、写真などを飾り、安らぎのある環境になるよう取り組んでいる。		
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性や、その時の個々の状態に合わせた居場所づくりを心掛けている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い慣れた家具や日用品、写真等を持ち込んでもらい、安心できる居心地のよい居室になるよう努めている。		
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人の状態に合わせ、居室の家具の配置を変えたり、衣類や日用品の収納も利用者が安全に使用できるよう、環境整備に努めている。		